



新鶴見小

江ヶ崎町2番1号 ☎583-8915

災害から学ぶ、命を守るということ

校長 田名部 和美

この夏、熊本を訪れる機会があり、熊本城を見学しました。熊本地震から10年が経ち、復旧・復興が進められてきた中で、7月に再び大きな地震に襲われたことを知ったときは、なんとも言えない気持ちになりました。現地を訪れてみると、復旧の途中にある石垣が再び崩れている様子も目にし、これまで復興に向けて力を尽くしてこられた方々の思いを考えると、胸が痛みました。

熊本城の石垣は、崩れた石をただ積み直すのではなく、一つ一つの石の形を確かめ、どの石と組み合わせればよいのかを考えながら、組み立てていくそうです。実際に石に数字が付けられているのを見て、文化遺産を大事につないでいこうとする思いに触れ感動するとともに、復興には多くの時間と人の力が必要なのだという事を強く感じました。

8月には、千葉県でも記録的な大雨による大きな被害が発生しました。地震や豪雨などの自然災害は、いつどこで起こるか分からないこと、災害は決して遠い場所のできごとではないのだということを改めて感じさせられた今年の夏でした。

防災は「いつか起こるかもしれないこと」への備えではなく、「いつ起きてもおかしくないこと」への備えをしておくことが大切です。自分の命を守るために、避難場所や避難経路を確認する、家族との連絡方法を決めておく、地域の方々と顔の見える関係をつくっておく……。これらのことが、いざというときに大きな力になります。9月には江ヶ崎町内会での総合防災訓練が予定されています。ぜひご家庭でも、災害が起きたときの行動や、地域の方々と支え合うことの大切さについて考える機会にしていいただければと思います。

熊本城の復旧現場で、丁寧に石垣を築いていく仕事を目にし、再び積み上げていくことの大変さを感じました。同時に、そこに向かう人々の強さを感じる事ができました。私たちも、日頃からできることを積み重ねていくことが大事です。学校と家庭、そして地域が力を合わせ、命を守るための備えをしっかりとしていきましょう。

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧・復興を心より願っています。